

やってみよう、江戸しぐさ

江戸しぐさは、おたがいが気持ちよく過ごすための江戸っ子たちの生活の知恵だ。考えるより先に自然に出てしまう、くせのようなものだった。



「江戸しぐさ」って、知ってる？

江戸っ子ってどんな人？

「江戸っ子」は、江戸に生まれ住んでいるのが第一条件だ。でも、それだけでは江戸っ子を名乗ることはできなかった。江戸っ子の信念は「いき」と「張り」だ。「いき」とは「意気」や「粋」と書き、心も身なりもさっぱりとしていて、洗練されていること。「張り」とは自分の意思を通す強い気持ちのことで、江戸っ子は見栄っ張りや意地っ張りな気質だった。この2つを信じ守って、行動する人が江戸っ子だった。



江戸に暮らせば「江戸っ子」なの？



これぞ江戸っ子！

歌舞伎の演目の1つ、「助六由縁江戸桜」の主人公、花川戸助六は、江戸っ子たちのヒーローだった。理想の「いき」を表現し、格好よいしぐさや服装が人気だった。

江戸っ子は初もの好き

江戸っ子が好んだもの、それは初ものだった。少し待って旬をむかえれば、価格も下がるし、味もさらによくなる。それなのに、あえて旬の前の初ものを、しかも、だれよりも早く食べることは「いき」な行いだとかえられていた。



江戸っ子は祭り好き♡

祭りは江戸の人々を熱狂させた。町ごとに、ぜいたくでさらびやかな、美しい山車などの練物をつくり、江戸っ子たちは「張り」を競い合った。



どんな江戸しぐさがあるの？

「江戸しぐさ」は、だれにでもすぐできるものばかりだ。小さな行いだけれど、見ているほうも気持ちがいい。江戸っ子のくせをまねしてみよう。

さりげなくできるといいね。



雨の日に、思い出したいやさしさ 傘かしげ

雨の日に路地ですれちがうときは、おたがいに傘を外側に向ける。そうすれば、しずくで相手をぬらさずにすむ。



満員電車のなかで実せんしたい、ゆずり合い こぶし腰うかせ

こぶし1つ分腰をあげて席をつめ、1人でも多くの人が座れるようにする。ゆずり合いの精神がだいじ。



痛くても、自分からあやまる心づかい うかつあやまり

うかつとは注意がたりずっかりしている様。たとえ被害を受けても、自分の注意のたりなさをあやまる。おたがいにあやまれば丸く収まる。



「敬意」の精神と、「年相応」の心構え 年代しぐさ

年長者には敬意をはらい、自分の年代にあったふるまいをすることが基本。江戸っ子は、年相応のしぐさを、おたがいに見て学んで暮らしていた。



江戸しぐさができない者は、田舎者とよばれ、江戸っ子として認められなかったのよ。